

こねるま

娘の結婚式

1月27日に、長女(麻琴)が結婚式を挙げました。本当に小さな式でしたが、参列して下さった皆さんのおかげで、とても温かな良い式になりました。

この子は、生まれたときから身体が小さく、病がちで、兄弟四人の中では、一番心配した子でした。社会人になってまだ間がないので、「結婚してやっていけるのか?」と心配にもなりましたが、ウエディングドレスを着た娘は、とても輝いていて、立派に一人前の女性になっていました。

普段は妻より私の方が涙もろいのですが、賛美歌が流れるとすぐに妻が泣き出し、これまで育てて来てくれた妻の苦労が伝わって来るようで、胸が一杯になりました。きっと、たくさんの思い出が込み上げて来たのでしょう。

式の間中、小学生の妹弟は、一生懸命、新郎と新婦の写真を撮っていました。私は、こうした子供達の姿を心に刻んでおきたいと想います。こうした一つ一つの姿が、私にとっては、どんな物にも代え難い、大切な、大切な思い出なのです。

父親の子育て

私は、毎朝六時に小学校3年の長男を起こし、一緒に海まで走っています。海まで往復で2.5km。昇って来る朝日に「今日も一日、見守っていて下さい」と、お願いして帰って来るのです。

この時期の六時というとまだ暗く、寒い日などには、布団の中で丸くなっている子供を見ると、可哀想でたまらなく、卑怯にも妻に起こしに行ってもらったりしています。しかし、これからの時代は、今とは違い、やらなくてはならないことは、嫌なことでもキチッとやれる人でないと通らなくなるだろうと思うのです。

ですから、例えば、嫌なことでも、やり始めてしまえば、それ程ではなくなり、やり終えてしまえば、かえってスッキリしてしまうことを子供のうちに教えておきたいのです。

私が子供の頃から、「友達のような親子」というものが出始めましたが、今にしてみると、その多くは、親が子供のレベルに降りただけだった気がしてなりません。その結果、お世話になっている親にさえ、友達に対するように平気で文句を言う子供が増えた気がしてならないのです。

皆さんのお子さんは、親の言うことを聞きますか?
「全て親の言うことを聞け」と言うつもりはありませんが、お世話になっている人の意見に耳を傾けない人が、社会で人から大切にされるでしょうか?
子供達の年齢では、気づくことの出来ないことを教えるためにも、親は友達であってはいけないと思うのです。

第61回 中日農業賞 受賞

私達と一緒に経営の勉強をしている鈴木厚志C.L.Tトレーナーが、静岡県で唯一人「中日農業賞」を受賞しました。

「笑顔創造」を経営理念に水耕栽培に取り組み、技術改良でミツバとネギの小型化を実現。安価で日持ちのする「姫ネギ」ブランドを確立すると共に、「土に触れる農業は、心のケアにも向いているはず」という思いから、障害者の雇用に積極的に取り組んで、従業員24名中、6人が知的障害者という経営姿勢が認められたのです。ここまで来るのには、きっとたくさんのご苦労があったことでしょう。中日新聞の講評には、彼の会社(京丸園)を指して、「笑顔は一人で生まれません。人と人との心の通い合う所に笑顔が生まれ、また、笑顔のある所に心の交流が生まれる」という言葉が記されていました。

新たな挑戦!

「そして奇跡は起こった」を読みました。丁度、杉井さんの社員教育のビデオを見た後だったので、これまでの私は「今の努力」はして来たものの、「生還する」という目的(支持される会社作りや社員教育)をして来なかったことに気が付きました。間違いない、私の会社はシャクルトン隊より長く遺棄されています。そろそろ生還に向かいたいと思います。

今年、次女・三女が受験をする年なので、その応援の意味も含め、私も大学を受験することにしました。

特に英語は、「忘れた」というより、元々勉強していなかったので、中学生の娘に教えてもらっての受験勉強となりました。

私としては、受からないまでも一緒に努力する姿を見せてあげようと思って臨んだ入試でしたが、いざ会場に行ってみると、真剣に勉強して来ている社会人の方達が大勢いらして、頭の下がる思いで帰って来ることになりました。

「私が落ちたら子供達も気楽に受験が出来るだろう」などと言っていますが、本当に参りました。

皆さん! 世の中には努力している人達が大勢います。油断していると、私のように、どえらい目に合いますよ!

「恥」って、何?

私の祖母は、晩年には少しボケが入り、自分の娘たちにも「悪いのぉ」「申し訳ないのぉ」と頭を下げる人でした。若い頃には、お金を稼いだり、立派なことを言える人が偉い人だと思っていたので、そんな頭を下げてばかりいる祖母を、私は何となく低く見ていた気がします。

しかし、この歳になると、あの頃の祖母を思い出し、「祖母は、立派だったなぁ」「私もあんな風になれたらいいなぁ」と思えてくるのです。

今、もし私がボケたら、きっとお世話してくれる人に偉そうなことを言ったり、文句を言うと思います。本当に恐ろしいです。

近頃では「恥」という文化は薄れ、「犯罪でなければ、何をしても良い」という生き方や、更には「バレなければ、何をしても良い」という生き方が増えて来ている気がします。しかし「罪」というのは、したら罰せられる最低限のことで、それを犯さなければ「幸せになれる」というものではないのです。

私がジョギングの時に、子供と一緒に太陽に向かって手を合わせるのには、「自分より大いなるものを恐れ」「お天道様がいつも見ている」という考え方を持っていてほしいと思うからです。

私は、人を大切にする生き方をする人が、人から大切にされ、人を不快にする生き方をする人は、人から疎ましがられると思っています。そうした生き方を誰も見ていなくても、「お天道様は見えてくれる」と思えたら、どれ程救われることでしょう。

確かに、一生懸命、良い生き方をしても、傷ついたり、辛い出来事が続くことはあります。しかし、そんな時は、自分で「よくやった」と、自分を褒めてあげてほしいと思うのです。

自分を好きになったり、大切に思えるようになることは、外から与えられた褒美より、もっと大きなものだと思うのです。

人によって、「何が恥か」は、それぞれ違うでしょうが、皆さんにとって「恥」とは、どんなものなのでしょう?

この時期にこうしたことを書くと、どこかの企業やお役人様のことを思う人がいるかも知れませんが、道にゴミを捨てたり、自分より弱者に大きな声を出したり、元々、自分が稼いだ訳でもない遺産を奪い合うなど、私達の周りには「これは恥ずかしいことではないか?」と思えることがたくさんある気がします。